

## 校異源氏物語・ははきぎ

ひかる源氏名のみことくしういひけたたまふとかおほかなるにいと、かゝるすきことゝもをすゑの世にもきゝつたへてかろひたる名をやなかさむとしのひ給けるかくろへことをさへかたりつたへけむ人のものいひさかなさよさるはいといたく世をはゝかりまめたち給けるほとなよひかにをかしきことはなくてかたのゝ少将にはわらはれ給けむかしまた中将などにものし給しときは内にのみさふらひようし給て大殿にはたえくまかて給ふしのふのみたれやとうたかひきこゆる事もありしかとさしもあためきめなれたるうちつけのすきくしきなどはこのましからぬ御本上にてまれにはあなかにひきたかへ心つくしなることを御心におほしとゝむるくせなむあやにくにてさるましき御ふるまひもうちましりけるなかあめはれまなきころ内の御ものいみさしつゝきていとゝなかるさふらひ給を大殿にはおほつかなくうらめしくおほしたれとよろつの御よそひなにくれとめつらしきさまにてうしいて給つ御むすこの君たちたゝこの御とのゑどころに宮つかへをつとめ給ふ宮はらの中将はなかにしたしくなれきこえ給てあそひたはふれをも人よりは心やすくなれくしくふるまひたり右のおとゝのいたはりかしつき給ふすみかはこの君もいともうくしてすきかましきあた人なりさとにてもわかかたのしつらひまはゆくして君のいていりし給にうちつれきこえ給つゝよるひるかくもむをあそひをももろともにしておさくたちをくれすいつくにててもまつはれきこえ給ふほとにをのつからかしこまりもえをかす心のうちにおもふこともかくしあへすなんむつれきこえ給けるつれくゝとふりくらししてしめやかなるよひの雨に殿上にもおさく人すくなに御とのる所もれいよりはのとやかなる心ちするにおほとなふらちかくてふみともなとみ給ちかきみつしなるいろくのかみなるふみともをひきいてゝ中将わりなくゆかしかれはさりぬへきすこしはみせむかたわなるへきもこそとゆるし給はねはそのうちとけてかたはらいたしとおほされんこそゆかしけれをしなへたるおほかたのはかすならねとほとくにつけてかきかはしつゝもみ侍なんをのかしゝうらめしきおりくまちかほならむゆふくれなどのこそみ所はあらめとゑんすればやむことなくせちにかくし給へきなどはかやうにおほそうなるみつし

なとにうちをきちらし給ふへくもあらずふかくとりをき給へかめれば二のまれの心やすきなるへしかたはしつゝみるによくさまゝなるものともこそ侍れとて心あてにそれかかれかなとふなかにいひあつるもありもてはなれたることをも思ひよせてうたかふもをかしとおほせとことすくなにてとかくまきはしつゝとりかくし給つそこにこそおほくつとへ給らめすこしみはやさてなんこのつしも心よくひらくへきとのたまへは御らむし所あらむこそかたく待らめなときこえ給ふついでに女のこれはしもなんつくましきはかたくもあるかなとやうゝなむみ給へしるたゝうはへはかりのなさけにてはしりかきおりふしのいらへ心えてうちしなとはかりはすいふんによろしきもおほかりとみ給れとそもまことにそのかたをとりいてんえらひにかならずもるましきはいとかたしやわか心えたる事はかりををのかしゝ心をやりて人をおとしめなとかたはらいたき事おほかりおやなとたちそひもてあかめておひさきこもれるまとのうちなるほとはたゝかたかとをきゝつたへて心をうこかすこともあめりかたちをかしくうちおほときわかやかにてまきるゝことなきほとはかなきすさひをも人まねに心をいるゝ事もあるにをのつからひとつゆへつけてしいつる事もありみる人をくれたるかたをはいひかくしさてありぬへきかたをはつくるひてまねひいたすにそれしかあらしとそらにいかゝはをしはかりおもひくたさむまことかとみもてゆくにみをとりせぬやうはなくなあるへきとうめきたるけしきもはつかしけなれはいとなへてはあらねと我おほしあはすることやあらむうちほをえみてそのかたかともなき人はあらむやとの給へはいとさはかりならむあたりにはたれかはすかされより侍らむとる方なくちおしきゝはというなりとおほゆばかりすくれたるとはかすひとしくこそ侍らめ人のしなたくむまれぬれは人にもてかしつかれてかくるゝ事おほくしねんにそのけはひこよなかるへし中のしなになん人の心ゝをのかしゝのたてたるおもむきもみえてわかるへきことかたゝおほかるへきしものきさみといふきはなれはことにみゝたゝすかしとていとくまなけなるけしきなるもゆかしくてそのしなゝやいかにいつれをみつのしなにをきてかわくへきもとのしなたくむまれながら身はしつみくらゐみしかくて人けなき又なを人のかむたちめなとまてなりのほりわれはかほにて家のうちをかさり人におとらしとおもへるそのけちめをはいかゝわくへきととひ給ほとに左のむまのかみ藤式部のそう御物いみにこもらむとてまいれり世のすきものにてものよくいひとをれるを中将まちとりてこのしなゝをわきまへさためあらそふいときゝにくき事おほかりなりのほれともとよりさるへきす

ちならぬは世人のおるへることもさはいへとなをことなり又もとはやむことなきすちなれと世にふるたつきすくなく時世にうつろひておほえおとろえぬれは心は心として事たらずわろひたる事ともいてくるわさなめれはとりくことにことはりてなかのしなにそをくへきすりやうといひて人の国のことにかゝつらひいとなみてしなきたまりたる中にも又きさみくありて中のしなのけしうはあらぬえりいてつへきころほひ也なまくの上達部よりも非参議の四位ともの世のおほえくちおしからすものねさしいやしからぬやすらかに身をもてなしふるまひたるいとかはらかなりや家のうちにたらぬことなどはたなかめるまゝにはふかすまはゆきまでもてかしつけるむすめなどのおとしめかたくおひいるもあまたあるへし宮つかへにいてたちておもひかけぬさいはひとりいつるためしともおほかりかしなといへはすへてにきはしきによるへきなむなりとてわらひ給ふをこと人のいはむやうに心えすおほせらると中将にくむものしな時世のおほえうちあひやむことなきあたりのうちくのもてなしけはひをくれたらむはさらにもいはすなをしかくおひいてけむといふかひなくおほゆへしうちあひてすぐれたらむもことはりこれこそはさるへきこと、おほえてめつらかなる事と心もおとろくましなにかしかをよふへきほとならねはかみかかみはうちをき待ぬさてよにありと人にしられすさひしくあはれたらむむくらのかとおもひのほかにらうたけならん人のとちられたらんこそかきりなくめつらしくはおほえめいかてはたかりけむとおもふよりたかへることなんあやしく心とまるわさなるちくとしおひものむつかしけにふとりすきせうとのかほにくけにおもひやりことなる事なきねやのうちにいたくおもひあかりはかなくしいてたることわさもゆへなからすみえたらむかたかとてもいか、思ひのほかをかしからさらむすぐれてきすなきかたのえらひにこそをよはさらめさるかたにてすてかたきものはとて式部をみやればわかいもうとものよろしき、こえあるをおもひての給にやとや心うらむものもいはすいてやかみのしなとおもふにたにかたけなるよをと君はおほすへししろき御そものなよ、かなるになをしはかりをしとけなくし給てひもなともうちすて、そひふし給へる御ほかけいとめてたく女にてみたてまつらまほしこの御ためにはかみかかみをえりいて、も猶あくましくみえ給ふさまくの人のうへともをかたりあはせつ、おほかたの世につけてみるにはとかなきもわかものとうちたのむへきをえらんにおほかる中にもえなんおもひさたむまじかりけるおのこの大やけにつかうまつりはかくしき世のかためとなるへきもまことのうつはものとなるへきをと

りいたさむにはかたかるへしかしされとかしこしとてもひとりふたり世中をまつりこちしるへきならねはかみはしもにたすけられしもはかみになひきて事ひろきにゆつろふらんせはき家のうちのあるしとすべき人ひとりをおもひめくらすにたらはてあしかるへき大事ともなむかたかたおほかるとあれはかゝりあふさきるさにてなのめにさてありぬへき人のすくなきをすき／＼しき心のすさひにて人のありさまをあまたみあはせむのこのみならねとひとへにおもひさたむへきよるへとすはかりにおなしくはわかちからいりをしなをしひきつくるふへき所なく心になふやうにもやとえりそめつる人のさたまりかたきなるへしかならずしもわかおもふにかなはねとみそめつる契はかりをすてかたく思ひとまる人はものまめやかなりとみえさてたもたるゝ女のためも心にくゝをしはからるゝなりされとなにか世のありさまをみたまへあつむるまゝに心にをよはすいとゆかしき事もなしや君達のかみなき御えらひにはましていかはかりの人かはたくひ給はんかたちきたなくわかやかなるほどののをかしゝはちりもつかしと身をもてなしふみをかけとおほとかにことえりをしすみつきほのかに心もとなくおもはせつゝ又さやかにもみてしかなとすへなくまたせわつかなるこゑきくはかりいひよれといきのしたにひきいれことすくなゝるかいとよくもてかくすなりけりなよひかに女しとみればあまりなさけにひきこめられてとりなせはあためくこれをはしめのなむとすへしことかなかなのめなるましき人のうしろみのかたはものゝあはれしりすくしはかなきついでのなさけありをかしきにすゝめるかたなくてもよかるへしとみえたるに又まめ／＼しきすちをたてゝみゝはさみかちにひさうなき家とうしのひとへにうちとけたるうしろみはかりをしてあさゆふのいていりにつけてもおほやけわたくしの人のたゝすまひよきあしき事のめにもみゝにもとまるありさまをうとき人にわざとうちまねはんやはちかくてみんなのきゝわきおもひしるへからむにかたりもあはせはやとうちもゑまれなみたもさしくみもしはあやなきおほやけはらたゝしく心ひとつにおもひあまる事なとおほかるをなにゝかはきかせむとおもへはうちそむかれて人しれぬ思いてわらひもせられあはれともうちひとりこたゝるゝになに事そなとあはつかにさしあふきるたらむはいかゝはくちおしからぬたゝひたふるにこめてきてやはらかならむ人をとかくひきつくるひてはなとかみさらん心となくともなをしところある心地すへしけにさしむかひてみむほとはさてもらうたきかたにつみゆるしみるへきをたちはなれてさるへきことをいひやりおりふしにしいてむわさのあた事にもまめことにもわか心とおもひうる事なくふかきいた

りなからむはいとくちおしくたのもしけなきとかやなをくるしからむつねはす  
こしそはくしく心つきなき人のおりふしにつけていてはへするやうもありか  
しなとくまなきものいひもさためかねていたくうちなけくいまはたゝしなにも  
よらしかたちをはさらにもいはしいとくちおしくねちけかましきおほえたにな  
くはたゝひとへにものまめやかにしつかなる心のおもむきならむよるへをそつ  
ゐのたのみ所には思ひをくへかりけるあまりゆへよし心はせうちそへたらむを  
はよろこひにおもひすこしをくれたるかたあらむをもあなちにもとめくはへ  
しうしろやすくのときき所たにつよくはうはへのなさけはをのつからもてつけ  
つへきわさをやえんにものはちしてうらみいふへきことをみしらぬさまにし  
のひてうへはつれなくみさをつくりこゝろひとつに思あまる時はいはんかたな  
くすきことのはあはれなるうたをよみをきしのはるへきかたみをとゝめてふ  
かき山さと世はなれたるうみつらなどにはひかくれぬるおりかしわらはに侍し  
とき女房などの物かたりよみしをきゝていとあはれにかなしく心ふかきことか  
なと涙をさへなんおとし侍しいま思にはいとかるくしくことさらひたる事也  
心さしふかゝらんおとこをゝきてみるめのまへにつらきことありとも人の心を  
みしらぬやうにゝけかくれて人をまとはし心をみんとするほどになかき世の物  
おもひになるいとあちきなき事也心ふかしやなとほめたてられてあはれすゝみ  
ぬれはやかてあまになりぬかし思ひたつほとはいと心すめるやうにて世にかへ  
りみすへくもおもへらすいてあなかなしかくはたおほしなりにけるよなどやう  
にあひしれる人きとふらひひたすらにうしともおもひはなれぬ男きゝつけて涙  
おとせはつかふ人ふるこたちなど君の御心はあはれなりけるものをあたら御身  
をなといふみつからひたひかみをかきさくりてあへなく心ほそければうちひそ  
みぬかししのふれと涙こほれそめぬれはおりくゝことにえねむしえすくやしき  
ことおほかめるに仏も中く心きたなしとみ給つへしにこりにしめるほどより  
もなまうかひにてはかへりてあしきみちにもたゝよひぬへくそおほゆるたえぬ  
すくせあさからてあまになるなさてたつねとりたらんもやかてそのおもひいてう  
らめしきふしあらさんやあしくもよくもあひそひてとあらむおりもかゝらん  
きさみをもみすくしたらん中こそ契ふかくあはれならめわれも人もうしろめた  
く心をかれしやは又なのめにうつろふかたあらむ人をうらみてけしきはみそむ  
かんはたおこかましかりなん心はうつろふかたありともみそめし心さしいとお  
しくおもはゝさるかたのよすかにおもひてもありぬへきにさやうならむたちろ  
きにたへぬへきわさなりすへてよろつの事なたらかにゑんすへきことをはみし

れるさまにほめかしうらむへからむふしをもにくからすかすめなさはそれに  
つけてあはれもまさりぬへしおほくはわか心もみる人からおさまりもすへしあ  
まりむけにうちゆるへみはなちたるも心やすくらうたきやうなれとをのつから  
かるきかたにそおほえ侍かしつなかぬ舟のうきたるためしもけにあやなしさは  
侍らぬかといへは中将うなつくさしあたりてをかしともあはれとも心にいらむ  
人のたのもしけなきうたかひあらむこそ大事なるへけれわか心あやまちなくて  
みすくさはさしなをしてもなとかみさらむとおほえたれとそれさしもあらしと  
もかくもたかふへきふしあらむをのとやかにみしのはむよりほかにます事ある  
ましかりけりといひてわかいもうとの姫君はこのさためにかなひ給へりとおも  
へは君のうちねふりてことはませ給はぬをさうくしく心やましとおもうむま  
のかみ物さためのはかせになりてひゝらきゐたり中将はこのことはりきゝはて  
むと心いれてあへしらひる給へりよろづの事によそへておほせきのみちのたく  
みのよろづの物を心にまかせてつくりいたすもむしのもてあそひものゝその  
物とあともさたまらぬはそはつきされはみたるもけにかうもしつへかりけりと  
時につけつゝさまをかへていまめかしきにめうつりてをかしきもあり大事とし  
てまことにうるはしき人のてうとのかさりとするさたまれるやうある物をなん  
なくしいつる事なんなをまことのものゝ上手はさまことにみえわかれ侍又ゑと  
ころに上手おほかれとすみかきにえらはれてつきつきにさらにおとりまさるけ  
ちめふとしもみえわかれすかゝれと人のみをよはぬほうらいの山あらうみのい  
かれるいほのすかたから国のはけしきけたものゝかたちめにみえぬおにのかほ  
などのおとろくしくつくりたる物は心にまかせてひときはめおとろかしてし  
ちにはにさらめとさてありぬへし世のつねの山のたゝすまひ水のなかれめにち  
かき人の家ゐありさまけにとみえなつかしくやはらいたるかたなどをしつかに  
かきませてすくよかならぬ山のけしきこふかくよはなれてたゝみなしけちかき  
まかきのうちをはその心しらひをきてなとをなん上手はいといきほひことにわ  
ろ物はおよはぬ所おほかめるてをかきたるにもふかき事はなくてこゝかしこの  
てんなかにはしりかきそこはかとなくけしきはめるはうちみるにかとくしく  
けしきたちたれとなをまことのすちをこまやかにかきえたるはうはへのふてき  
えてみゆれといまひとひとりならへてみれば猶しちになんよりけるはかなき  
事たにかくこそ侍れまして人の心の時にあたりてけしきはめらむみるめのなさ  
けをはえたのむましくおもふ給へて侍るそのはしめの事すきくしくとも申侍  
らむとてちかくゐよれば君もめさまし給ふ中将いみしくしんしてつらつえをつ

きてむかひる給へりの師の世のことはるとき、かせむ所の心ちするもかつはをかしけれとかゝるついてはをのくむつこともえしのひとゝめすなんありけるはやうまたいと下らうに侍し時あはれとおもふ人侍ききこえさせつるやうにかたちなといとまほにも侍らさりしかはわかきほどのすき心にはこの人をとまりにともおもひとゝめ侍らすよるへとは思ひなからさうくしくてとかくまきれ侍しをものゑんしをいたくし侍しかは心つきなくいとかゝらておいらかならましかはとおもひつゝあまりいとゆるしなくうたかひ侍しもうるさくてかくかすならぬ身をみもはなたてなとかくしもおもふらむと心くるしきおりくも侍てしねんに心おさめらるゝやうになん侍しこの女のあるやうもとよりおもひいたらさりける事にもいかてこの人のためにはとなきてをいたしをくれたるすちの心をもなをくちおしくはみえしとおもひはけみつゝとにかくにつけてものまめやかにうしろみつゆにても心にたかふことはなくもかなと思へりしほとにすゝめるかたと思ひしかととかくになひきてなよひゆきみにくきかたちをもこの人にみやうとまれんとわりなくおもひつくるひうとき人にみえはおもてふせにや思はんとはゝかりはちてみさをにもてつけてみなるゝまゝに心もけしうはあらず侍しかとたゝこのにくきかたひとつなん心おさめす侍しそのかみおもひ侍しやうかうあなかにしたかひをちたる人なめりいかてこるはかりのわさしとおとしてこのかたもすこしよろしくもなりさかなさもやめむとおもひてまことにうしなともおもひてたえぬへきけしきならはかはかりわれにしたかふ心ならはおもひこりなむと思給へえてことさらになさけなくつれなきさまをみせてれいのはらたちゑんするにかくおそましくはいみしき契りふかくともたえて又みしかきりとおもはゝかくわりなきものうたかひはせよゆくさきなくみえむとおもはゝつらきことありともねんしてなめにおもひなりてかゝる心たにうせなはいとあはれとなん思ふへき人なみくゝにもなりすこしおとなひんにそへてもまたならふ人なくあるへきやうなとかしくおしへたつるかなと思給へて我たけくいひそし侍にすこしうちわらひてよろつにみたてなく物けなきほとをみすくして人かすなる世もやとまつかたはいとのとかにおもひなされて心やましくもあらずつらき心をしのひておもひなをらんおりをみつけんとし月をかさねんあいなたのみはいとくるしくなんあるへければかたみにそむきぬへききさみになむあるとねたけにいふにはらたゝしくなりてにくけなる事ともをいひはけまし侍に女もえおさめぬすちにておよひひとつをひきよせてくひて侍りしをおとろくしくかこちてかゝるきすさへつきぬれはいよくましらひをすへ

きにもあらずはつかしめ給めるつかさくらゐいと、しくなに、つけてかは人め  
かん世をそむきぬへき身なめりなといひおとしてさらはけふこそはかきりなめ  
れとこのおよひをかゝめてまかてぬ

てをおりてあひみし事をかそふれはこれひとつやは君かうきふしえうらみ

しなといひ侍れはさすかにうちなきて

うきふしを心ひとつにかそへきてこや君かてをわかるへきおりなといひし

ろひ侍しかとまことにはかはるへきこと、も思給へすなからひころふるまでせ  
うそこもつかはさすあくかれまかりありくにりむしのまつりのてうかくに夜ふ  
けていみしうみそれふる夜これかれまかりあかる、所にておもひめくらせは猶  
家ちと思はむかたは又なかりけり内わたりのたひねすさましかるへくけしきは  
めるあたりはそゝろさむくやとおもふ給へられしかはいかゝおもへるとけしき  
もみかてら雪をうちはらひつゝなま人わるくつめくはるれとさりともしこよひひ  
ころのうらみはとけなむと思給へしに火ほのかにかへにそむけなへたるきぬと  
ものあつこへたるおほいなるこにうちかけてひきあくへきものゝかたひらなと  
うちあけてこよひはかりやとまちけるさまなりされはよと心おこりするにさう  
しみはなしさるへき女房ともはかりとまりておやの家にかのよさりなんわたり  
ぬるとこたへ侍りえんなる歌もよますけしきはめるせうそこもせていとひたや  
こもりになさけなかりしかはあへなき心ちしてさかなくゆるしなかりしも我を  
うとみねとおもふかたの心やありけむとさしもみ給へさりしことなれと心やま  
しきまゝにおもひ侍しにきるへき物つねよりも心とゝめたる色あひしさまいと  
あらまほしくてさすかにわかみすてん後をさへなんおもひやりうしろみたりし  
さりともしたえておもひはなつやうはあらしと思ふ給へてとかくいひ侍しをそむ  
きもせずとたつねまとはさむともかくれしのひすかゝやかしからすいらへつゝ  
たゝありしなからはえなんみすくすましきあらためてのとかにおもひならはな  
んあひみるへきなといひしをさりともしえおもひはなれしと思給へしかはしはし  
こらさむの心にてしかあらためむともいはすいたくつなひきてみせしあひたに  
いといたくおもひなけきではかなくなり侍にしかはたはふれにくゝなむおほえ  
侍しひとへにうちのみたらむかたはさはかりにてありぬへくなんおもひ給へ  
いてらるゝはかなきあた事をもまことの大事をもいひあはせたるにかひなから  
すたつた姫といはむにもつきなからすたなはたのてにもおとるましくそのかた  
もくしてうるさくなん侍しとていとあはれとおもひいたり中将そのたなはた  
のたちぬふかたをのとめてなかき契にそあえましけにそのたつた姫のにしきに



はまたしくものあらしはかなき花紅葉といふもおりふしの色あひつきなくはか／＼しからぬは露のはえなくきえぬるわきなりさあるによりかたき世とはさためかねたるそやといひはやし給ふさて又おなしころまかりかよひしところは人もたちまさり心はせまことにゆへありとみえぬへくうちよみはしりかきかいひくつまをとてつきくつきみなたと／＼しからすみきゝわたり侍きみるめもこともなく侍しかはこのさかなものをうちとけたるかたにて時／＼かくろへみ侍しほとはこよなく心とまり侍きこの人うせて後いかゝはせむあはれなからもすきぬるはかひなくてしは／＼まかりなるゝにはすこしまはゆくえんにこのまじき事はめにつかぬ所あるにうちたのむへくはみえすかれ／＼にのみみせ侍程にしのひて心かはせる人そありけらし神無月のころをひ月おもしろかりし夜うちよりまかて侍にあるうへ人きあひてこの車にあひのりて侍れは大納言の家にまかりとまらむとするにこの人いふやうこよひ人まつらむやとなんあやしく心くるしきとてこの女の家はたよきぬみちなりければあれたるくつれより池の水かけみえて月たにやとるすみかをすきむもさすかにており侍ぬかしもとよりさる心をかはせるにやありけんこの男いたくすゝろきてかとちかきらうのすのこたつものにしりかけてとはかり月をみるきくいとおもしろくうつろひわたり風にきほへるもみちのみたれなとあはれとけにみえたりふところなりけるふえとりいてゝふきならしかけもよしなとつゝしりうたふほどによくなるわこむをしらへとゝのへたりけるうるはしくかきあはせたりしほとけしうはあらずかしりちのしらへは女の物やはらかにかきならしてすのうちよりきこえたるもいまめきたるものゝこゑなれはきよくすめる月におりつきなからす男いたくめてゝすのもとにあゆみきてにはのもみちこそふみわけたるあともなければなとねたますきくをおりて

ことのねも月もえならぬやとなからつれなき人をひきやとめけるわろかめりなといひていまひとこゑきゝはやすへき人のある時てなのこひ給そなといったくあされかゝれは女こゑいたうつくるひて

木からしに吹あはすめるふえのねをひきとゝむへきことのはそなきとなまめきかはすにくゝなるをもしらて又さうのことをはむしきてうにしらへていまめかしくかいひきたるつまをとかとなきにはあらねとまはゆき心地なんし侍したゝ時／＼うちかたらふみやつかへ人などのあくまでされはみすきたるはさてもみるかきりはをかしくもありぬへし時／＼にてもさる所にてわすれぬよすかとおもふ給へんにはたのもしけなくさしすくいたりと心をかれてその夜の事

にことつけてこそまかりたえにしかこのふたつのことをおもふ給へあはするに  
わかき時の心にたに猶さやうにもていてたる事はいとあやしくたのもしけなく  
おほえ侍きいまよりのちはましてさのみなんおもふ給へらるへき御心のまゝに  
おらはおちぬへきはきの露ひろはゝきえなんとみる玉さゝのうへのあられなど  
のえんにあへかなるすきくしさのみこそをかしくおほさるらめいまさりと  
なゝとせあまりかほとにおほしゝりはへなんなにかしいやしきいさめにてす  
きたはめらむ女に心をかせ給へあやまちしてみむ人のかたくなゝる名をもたて  
つへき物なりといましむ中将れいのうなつく君すこしかたゑみてさる事とはお  
ほすへかめりいつかたにつけても人わるくはしたなかりけるみ物かたりかなと  
てうちわらひおはさうす中将なにかしはしれものゝ物かたりをせむとていとし  
のひてみそめたりし人のさてもみつへかりしけはひなりしかはなからふへきも  
のとしもおもふ給へさりしかとなれゆくまゝにあはれとおほえしかはたえく  
わすれぬ物に思給へしをさはかりになれはうちたのめるけしきもみえきたのむ  
につけてはうらめしとおもふ事もあらむと心なからおほゆるおりくも侍しを  
みしらぬやうにてひさしきとたえをもちうたまさかなる人とおもひたらすた  
ゝあさゆふにもてつけたらむありさまにみえて心くるしかりしかはたのめわた  
る事などもありきかしておやもなくいと心ほそけにてさらはこの人こそはとこと  
にふれておもへるさまもらうたけなりきかうのとけきにおたしくてひさしくま  
からさりしころこのみ給ふるわたりよりなさけなくうたである事をなんさるた  
よりありてかすめいはせたりける後にこそきゝ侍しかさるうき事やあらむとも  
しらす心にわすれすなからせうそなともせてひさしく侍しにむけにおもひし  
ほれてこゝろほそかりければおさなきものなともありしにおもひわつらひてな  
てしこの花をおりておこせたりしとてなみたくみたりさてそのふみのことはゝ  
とゝひ給へはいさやことなる事もなかりきや

山かつのかきほあるともおりくにあはれはかけよなてしこの露おもひい  
てしまゝにまかりたりしかはれいのうらもなきものからいとものおもひかほに  
てあれたる家の露しけきをなかめてむしのねにきほへるけしきむかし物かたり  
めきておほえ侍し

さきまじる色はいつれとわかねとも猶常夏にしくものそなきやまとなてし  
こをはさしをきてまつちりをたになとおやの心をとる

うちらはふ袖も露けきとこなつにあらし吹そふ秋もきにけりとはかなけに  
いひなしてまめくしくうらみたるさまもみえす涙をもらしおとしめていとは

つかしくつゝましけにまきはしかくしてつらきをもおもひしりけりとみえむ  
はわりなくくるしきものと思ひたりしかは心やすくて又とたえをき侍しほとに  
あともなくこそかきけちてうせにしかまた世にあらははかなきよにそさすらふ  
らんあはれとおもひしほとにわつらはしけにおもひまつはすけしきみえましか  
はかくもあくからさゝらましこよなきとたえをかすさるものになしてなかく  
みるやうも侍なましかのなてしこのらうたく侍しかはいかてたつねむとおもひ  
給るをいまもえこそきゝつけ侍らねこれこそたまへるはかなきためしなめれ  
つれなくてつらしとおもひけるもしらてあはれたえさりしもやくなきかたおも  
ひなりけりいまやうゝわすれゆくきはかれはたえしもおもひはなれすおり  
ゝ人やりならぬむねこかるゝゆふへもあらむとおほえ侍これなんえたもつま  
しくたのもしけなきかたなりけるされはかのさかな物おもひいてあるかたに  
わすれかたれとさしあたりてみんなはわつらはしくよくせすはあきたき事も  
ありなんやことのねすゝめけんかとゝしさもすきたるつみおもかるへしこの  
心もとなきもうたかひそふへければいつれとつるにおもひさためすなりぬるこ  
そ世中やたゝかくこそとりゝにくらへくるしかるへきこのさまゝのよきか  
きりをとりくしなんすへきくさはひませぬ人はいつこにかはあらむきち上天女  
をおもひかけむとすればほうけつきくすしからむこそ又わひしかりぬへけれと  
てみなわらひぬ式部か所にそけしきある事はあらむすこしつゝかたり申せとせ  
めらるしもかしものなかにはなてう事かきこしめし所侍らむといへと頭の君ま  
めやかにおそしとせめ給へはなに事をとり申さんとおもひめくらすにまた文章  
の生に侍し時かしこき女のためしをなんみ給へしかのむまのかみの申給へるや  
うにおほやけことをもいひあはせわたくしさまの世にすまふへき心をきてをお  
もひめくらさむかたもいたりふかくさえのきはなまゝのはかせはつかしくす  
へてくちあかすへくなん侍らさりしそれはあるはかせのもとにかくもんなとし  
侍とてまかりかよひしほどにあるしのむすめとおほかりときゝ給てはかなき  
ついてにいひよりて侍しをおやきゝつけてさかつきていてゝわかふたつのみ  
ちうたふをきけとなんきこえこち侍しかとおさゝうちとけてもまからすかの  
おやの心をはゝかりてさすかにかゝつらひ侍しほとにいとあはれにおもひうし  
ろみねさめのかたらひにも身のさへつきおほやけにつかうまつるへきみちゝ  
しきことをおしへていときよけにせうそこふみにもかなといふものかきませ  
すむへゝしくいひまはし侍にをのつからえまかりたえてそのものを師として  
なんわつかなるこしおれふみつくる事とならひ侍しかはいまにそのおんはわ

すれ侍らねとなつかしきさいしとうちたのまむにはむさいの人なまわらなむ  
ふるまひなとみえむにはつかしくなんみえ侍しまいて君達の御ためはかくし  
くしたたかなる御うしろみはなに、かせさせ給はんはかなしくちおしとかつみ  
つゝもたゝ我心につきすぐせのひくかた侍めれはおのこしもなんしさひなきも  
のは侍めると申せはのこりをいはせむとてさてくをかしかりける女かなとす  
かい給を心はえなからはなのわたりおこつきてかたりなすさていとひさしくま  
からさりしものゝたよりにたちよりて侍れはつねのうちとけゐたるかたには  
侍らて心やましきものこしにてなんあひて侍るふすふるにやとおこましくも  
又よきふしなりともおもひ給るにこのさかし人はたかるくしきものゑんしす  
へきにもあらず世のたうりをおひとりてうらみさりけりこゑもはやりかにて  
いふやう月ころふひやうおもきにたえかねてこくねちのさうやくをふくしてい  
とくさきによりなんえたいめむたまはらぬまのあたりならずともさるへからん  
さうしらはうけ給はらむといとあはれにむへくしくいひ侍いらへになにとか  
はたゝうけ給はりぬとてたちいて侍にさうさうしくやおほえけんこのかうせな  
ん時にたちより給へとたかやかにいふをきゝすくさむいとおししはしやすら  
ふへきにはた侍らねはけにそのにほひさへはなやかにたちそへるもすへなくて  
にけめをつかひて

さゝかにのふるまひしるきゆふくれにひるますくせといふかあやなさいか  
なる事つけそやといひもはてすはしりいて侍ぬるにおひて

あふことの夜をしへたてぬ中ならはひるまもなにかまはゆからましさすか  
にくちとくなどは侍きとしつくと申せは君達あさましとおもひてそら事とて  
わらひ給ふいつこのさる女かあるへきおひらかにおにとこそむかひゐたらめむ  
くつけき事とつまはしきをしていはむかたなしと式部をあはめにくみてすこし  
よろしからむ事を申せとせめ給へとこれよりめつらしき事はさふらひなんやと  
てをりすへて男も女もわろものはわつかにしれるかたの事をのこりなくみせつ  
くさむとおもへるこそいとおしけれ三史五経みちくしきかたをあきらかにさ  
とりあかさんこそあいきやうなからめなとかは女といはんからに世にある事の  
おほやけわたくしにつけてむけにしらすいたらすしもあらむわざとならひまね  
はねとすこしもかとあらむ人のみゝにもめにもとまる事しねんにおほかるへし  
さるまゝにはまむなをはしりかきてさるましきとちの女ふみになかはすきてか  
きすくめたるあなうたてこの人のたをやかならましかはとみえたり心ちにはさ  
しも思はさらめとをのつからこはくしきこゑによみなされなとしつゝことさ

らひとり上らうのなかにもおほかる事そかしうたよむとおもへる人のやかてう  
たにまつはれをかしきふる事をもはしめよりとりこみつゝすさまじきおりく  
よみかけたるこそものしき事なれ返しせねはなさけなしえせさらむ人ははした  
なからんさるへきせちゑなと五月のせちにいそきまいるあしたなにのあやめも  
おもひしつめられぬにえならぬねをひきかけ九日のえんにまつかたき詩の心を  
思めくらしいとまなきおりにきくの露をかこちよせなとやうのつきなきいと  
みにあはせさならてもをのつからけにのちにおもへはをかしくもあはれにもあ  
へかりける事のそのおりにつきなくめにとまらぬなどをおしはからすよみいて  
たる中く心をくれてみゆよろつの事になとかはさてもとおほゆるおりから時  
くおもひわかぬはかりの心にてはよしはみなさけたゝさらむなんめやすかる  
へきすへて心にしれらむ事をもしらすかほにもてなしいはまほしからむ事をも  
ひとつふたつのふしはすすくすへくなんあへかりけるといふにも君は人ひとりの  
御ありさまを心のうちにおもひつゝけ給これにたらず又さしすぎたる事なくも  
のし給けるかなとありかたきにもいとゝむねふたかるいつかたによりはつとも  
なくはてくはあやしき事ともになりてあかし給つからうしてけふは日のけし  
きもなをれりかくのみこもりさふらひ給も大殿の御心いとおしければまかて給  
へりおほかたのけしき人のけはひもけさやかにけたかくみたれたるましらす  
猶これこそほかの人ゝのすてかたくとりいてしまめ人にはたのまれぬへけれと  
おほすものからあまりうるはしき御ありさまのとけかたくはつかしけにおもひ  
しつまり給へるをさうくしくて中納言の君中つかさなとやうのをしなへたら  
ぬわか人ともにたはふれ事などの給つゝあつさにみたれ給へる御ありさまをみ  
るかひありとおもひきこえたりおとゝもわたり給てかくうちとけ給へればみ木  
丁へたてゝおはしまして御ものかたりきこえ給をあつきにとにかみ給へは人ゝ  
わらふあなかまとてけうそくによりおはすいとやすらかなる御ふるまひなりや  
くらくなるほとにこよひなかゝみうちよりはふたかりて侍けりときこゆさかし  
れいはいみ給ふかたなりけり二条院にもおなしすちにいていつくにかたかへんい  
となやましきにとておほとこのもれりいとあしき事なりとこれかれきこゆきの  
かみにてしたしくつかうまつる人の中河のわたりなる家なんこのころ水せきい  
れてすゝしきかけに侍ときこゆいとよかなりなやましきにうしなからひきいれ  
つへからむ所をとの給しのひくの御方たかへ所はあまたありぬへけれとひさ  
しくほどへてわたり給へるにかたふたけてひきたかへほかさまへとおほさんは  
いとおしきなるへしきのかみにおほせ事給へはうけ給なからしりそきていよの

かみのあそむの家につゝしむ事侍て女房なんまかりうつれるころにてせはき所に侍れはなめけなることや侍らむとしたになけくをきゝ給てその人ちかゝらむなんうれしかるへき女とをきたひねはものおそろしき心ちすへきをたゝその木丁のうしろにとの給へはけによろしきおまし所にもとて人はしらせやるいとしのひてことさらにことゝしからぬ所をといそきいて給へはおとゝにもきこえ給はす御ともにもむつまじきかきりしておはしましぬにはかにとわふれと人もきゝいれす心殿の東おもてはらひあけさせてかりそめの御しつらひしたり水の心はへなとさるかたにをかしくしなしたりゐなかいゑたつしはかきしてせむさいなと心とめてうへたりかせすゝしくてそこはかとなきむしのこゑゝきこえほたるしけくとひまかひてをかしきほとなり人ゝわたとのよりいてたるいつみにのそぎゐてさけのむあるしもさかなもとむとこゆるきのいそきありくほと君はのとやかになかめ給てかの中のしなにとりいてゝいひしこのなみならむかしとおほしいつおもひあかれるけしきにきゝをき給へるむすめなれはゆかしくてみゝとゝめ給へるにこのにしおもてにそ人のけはひするきぬのをとなひはらゝゝとしてわかきこゑともにくからすさすかにしのひてわらひなとするけはひことさらひたりかうしをあけたりけれとかみ心なしとむつかりておろしつれば火ともしたるすきかけさうしのかみよりもりたるにやをらより給てみゆやおほせとひまもなければしはしきゝ給にこのちかきもやにつとひあたるなるへしうちさゝめきいふことゝもをきゝ給へはわか御うへなるへしいといたうまめたちてまたきにやむことなきよすかさたまり給へるこそさうゝしかむめれされとさるへきくまにはよくこそかくれありき給ふなれなどいふにもおほす事のみ心にかゝり給へはまつむねつふれてかやうのつゐてにも人のいひもらさむをきゝつけたらむときなどおほえ給ことなる事なければきゝさし給つ式部卿の宮の姫君にあさかほたてまつり給し歌などをすこしほをゆかめてかたるもきこゆくつろきかましくうたすしかちにもあるかななをみおとりはしなんかしとおほすかみいてきてとうろかけそへ火あかくかゝけなとして御くた物はかりまいれりとはり帳もいかにそはさるかたの心もなくてはめさましきあるしならむとの給へはなによけむともえうけ給はらすとかしこまりてさふらふはしつかたのおましにかりなるやうにておほとのこもれは人ゝもしつまりぬあるしのことををかしけにてありわらはなる殿上のほとに御らむしなれたるもありいよのすけのこもありあまたあるなかにいとけはひあてはかにて十二三はかりなるもありいづれかいつれなとゝひ給にこれは故衛門督のすゑのこにていとかなくし侍ける

をおさなきほとにをくれ侍てあねなる人のよすかにかくて侍也さえなともつきぬへくけしうは侍らぬを殿上なとも思ふ給へかけなからすかくしうはえましらひ侍らさめると申あはれのことや此あね君やまうとの後のおやさなん侍と申ににけなきおやをまうけたりけるかなうへにもきこしめしをきて宮つかへにいたしたてむともらしそうせしいかになりにつむといつそやものたまはせし世こそさためなきものなれといとおよすけの給ふふいにかくてもものし侍なり世中といふものさのみこそいまもむかしもさたまりたる事侍らね中につゐても女のすくせはいとかひたるなんあはれに侍るなんときこえさすいよのすけかしつくや君とおもふらむないか、はわたくしのしうとこそは思ひて侍めるをすきくしきこと、なにかしよりはしめてうけひき侍らすなむと申すさりとてまうとたちのつきくしくいまめきたらむにおろしたてんやはかのすけはいとよしありてけしきはめるをやなとものかたりし給ていつかたにそみなしもやにおろし侍ぬるをえやまかりおりあへさらむときこゆゑいすゝみてみな人ゝすのこにふしつゝしつまりぬ君はとけてもねられ給はすいたつらふしとおほさるゝに御めさめてこのきたのさうしのあなたに人のけはひするをこなたやかくいふ人のかくれたるかたならむあはれやと御心とゝめてやをらおきてたちきゝ給へはありつる子のこゑにてものけ給はるいつくにおはしますそとかれたるこゑのをかしきにいていへはこゝにそふしたるまらうとはねたまひぬるかいかにかゝらむとおもひつるをされとけとをかりけりといふねたりけるこゑのしとけなきいとよくにかよひたれはいもうとゝきき給つひさしにそおほとのもりぬるをときゝつる御ありさまをみたてまつりつるけにこそめてたかりけれとみそかにいふひるならましかはのそきてみたてまつりてましとねふたけにいひてかほひきいれつるこゑすねたう心とゝめてもとひきけかしとあちきなくおほすまろははしにね侍らんあなくらとて火かゝけなとすへし女君はたゝこのさうしくちすちかひたるほとにそふしたるへき中将の君はいつくにそ人けとをき心地してものおそろしといふなれはなけしのしもに人ゝふしていらへす也しもにゆにおりてたゝいまいらむと侍といふみなしつまりたるけはひなれはかけかねを心みにひきあげ給へれはあなたよりはさゝさりけり木丁をさうしくちにはたてゝ火はほのくらきにみ給へはからひつたものともをゝきたれはみたりかはしきなかをわけり給れはけはひしつる所にいり給へれはたゝひとりいとさゝやかにてふしたりなまわつらはしきれとうへなるきぬをしやるまでもとめつる人とおもへり中将めしつれはなんひとしれぬおもひのしるしある心地してとの給をと

かくも思わかれすものにおそはるゝ心ちしてやとおひゆれとかほにきぬのさはりてをとにもたてすうちつけにふかゝらぬ心のほとゝみ給らんことはりなれとしころおもひわたる心のうちもきこえしらせむとてなんかゝるおりをまちいてたるもさらにあさくはあらしとおもひなし給へといとやはらかにの給ひておに神もあらたつましきけはひなれははしたなくこゝに人ともえのゝしらす心ちはたわひしくあるましきことゝおもへはあさましく人たかへにこそ侍めれといふもいきのしたなりきえまとへるけしきいと心くるしくらうたけなれはをかしとみ給てたかうへくもあらぬ心のしるへを思はずにもおほめい給かなすきかましきさまにはよにみえたてまつらしおもふ事すこしきこゆへきそとていとちいさやかなれはかきいたきてさうしのもといて給にそもとめつる中将たつ人きあひたるやゝとの給にあやしくてさくりよりたるにそいみしくにほひみちてかほにもくゆりかゝる心ちするに思よりぬあさましうこはいかなる事そとおもひまとはるれときこえんかたなしなみくゝの人ならばこそあらかにもひきかなくらめそれたに人のあまたしらむはいかゝあらん心もさはきてしたひきたれとうもなくておくなるおましにいり給ぬさうしをひきたてゝあかつきに御むかへにもものせよとの給へは女はこの人のおもふらむことさへしぬはかりわりなきになかるゝまであせになりていとなやましけなりいとおしけれとれいのいつこよりとうて給ことのはにかあらむあはれしるはかりなさけくゝしくの給つくすへかめれとなをいとあさましきにうつゝともおほえすこそかすならぬ身ながらもおほしくたしける御心はへのほともいかゝあさくはおもふ給へさらむいとかやうなるきはきはとこそはへなれとてかくをしたち給へるをふかくなさけなくうしと思ひいりたるさまもけにいとをしく心はつかしきけはひなれはそのきはくゝをまたしらぬうる事そや中くゝをしなへたるつらにおもひなし給へるなんうたてありけるをのつからきゝ給ふやうもあらむあなかななるすき心はさらにならはぬをさるへきにやけにかくあはめられたてまつるもことはりなる心まどひをみつからもあやしきまてなんなとまめたちてよろつにの給へといとたくひなき御ありさまのいよくゝうちとけきこえん事わひしければすくよかに心つきなしとはみえたてまつるともさるかたのいふかひなきにてすくしてむとおもひてつれなくのみもてなしたり人からのたをやきたるにつよき心をしゐてくはへたれはなよ竹の心ちしてさすかにおるへくもあらずまことに心やましくてあなかななる御心はへをいふかたなしとおもひてなくさまなといとあはれなり心くるしくはあれとみさらましかはくちおしからましとおほすなくさめかたくうし



と思へはなとかくうとましきものにしもおほすへきおほえなきさなるしも  
こそ契あるとはおもひ給はめむけに世をおもひしらぬやうにおほゝれ給なんい  
とつらきとうらみられていかくうき身のほどのさたまらぬありしなからの身  
にてかゝる御こゝろはへをみましかはあるましきわかたのみにてみなをし給ふ  
のちせをもおもひ給へなくさめましをいとかうかりなるうきねのほを思ひ侍  
にたくひなくおもふ給へまとはるゝ也よいいまはみきとなかけそとおもへる  
さまけにいとことほりなりおろかならす契なくさめ給ふ事おほかるへしとりも  
なきぬ人ゝおきいてゝいといきたなかりける夜かな御車ひきいてよなといふ  
なりかみもいてきて女などの御かたゝかへこそ夜ふかくいそかせ給へきかはな  
といふもありきみは又かやうのつゐてあらむ事もいとかくさしはへてはいか  
てか御ふみなどもかよはんことのいとわりなきをおほすにいとむねいたしおく  
の中将もいてゝいとくるしかれはゆるし給ても又ひきとゝめ給つゝいかてかき  
こゆへき世にしらぬ御心のつらさもあはれもあさからぬよのおもひいてはさま  
ゝめつらかなるへきためしかなとてうちなき給ふけしきいとなまめきたり鳥  
もしはゝなくに心あはたゝしくて

つれなきをうらみもはてぬしのゝめにとりあへぬまでおとろかすらむ女身

のありさまをおもふにいとつきなくまはゆき心地してめてたき御もてなしもな  
にともおほえすつねはいとすくゝしく心つきなしとおもひあなつるいよのか  
たのおもひやられて夢にやみゆらむとそらおそろしくつゝまし

身のうさをなけくにあかてあくる夜はとりかさねてそねもなけれけること

ゝあくなれはさうしくちまでをくり給ふうちもとも人さはかしければひきた  
てゝわかれ給ほと心ほそくへたつるせきとみえたり御なをしなとき給てみなみ  
のかうらむにしはしうちなかめ給ふにしおもてのかうしそゝきあけて人ゝの  
そくへかめりすのこの中のほにたてたるこさうしのかみよりほのかにみえ給  
へる御ありさまを身にしむはかりおもへるすき心とあめり月はあり明にてひ

かりおさまれるものからかけさやかにみえて中中おかしきあけほのなりな心  
なきそらのけしきもたゝみる人からえんにもすくもみゆるなりけり人しれぬ  
御心にはいとむねいたくことつてやらんよすかたになきをとかへりみかちにて  
いて給ぬ殿にかへり給てもとみにもまとろまれ給はすまたあひみるへきかたな  
きをましてかの人のおもふらん心のうちいかならむと心くるしくおもひやり給  
ふすくれたることはなけれとめやすくもてつけてもありつる中のしななくま  
なくみあつめたる人のいひし事はけにとおほしあはせられけりこのほとは大殿

にのみおはしますなをいとかきたえておもふらむ事のいとおしく御心にかゝりてくるしくおほしわひてきのかみをめしたりかのありし中納言のこはえさせてんやらうたけにみえしを身ちかくつかふ人にせむうへにも我たてまつらむとの給へはいとかしこきおほせ事に侍なりあねなる人にのたまひみんと申もむねつふれておほせとそのあね君はあそむのおとうとやたるさも侍らすこの二年はかりそかくてもなし侍れとおやのおきてにたかへりとおもひなきて心ゆかぬやうになんきゝ給ふるあはれのことやよろしくきこえし人そかしまことによしやとの給へはけしうは侍らさるへしもてはなれてうとくしく侍れは世のたとひにてむつひ侍らすと申すさて五六日ありてこの子ゐてまいれりこまやかにをかしとはなけれとなまめきたるさましてあて人とみえたりめしいれていとなつかしくかたらひ給ふわらは心ちにいとめてたくうれしとおもふいもうとの君の事もくはしくとひ給ふさるへきことはいらへきこえなとしてはつかしけにしつまりたれはうちいてにくしされといとよくいひしらせ給かゝる事こそはとほの心うるもおもひのほかなれとおさな心ちにふかくしもたとらす御ふみをもてきたれは女あさましきに涙もいてきぬこのこのおもふらん事もはしたなくてさすかに御ふみをおもかくしにひろけたりいとおほくて

みし夢をあふ夜ありやとなけくまにめさへあはてそころもへにけるぬる夜なければなとめもをよはぬ御かきさまもきりふたかりて心えぬすくせうちそへりける身をおもひつゝけてふし給へり又の曰小君めしたれはまいるとて御かへりこふかゝる御ふみみるへき人もなしときこえよとのたまへはうちゑみてたかふへくもの給はさりしものをいかゝさは申さむといふに心やましくのこりなくのたまはせしらせてけるとおもふにつらきことかきりなしいておやすけたる事はいはぬそよきさはなまいり給そとむつかられてめすにはいかてかとてもまいりぬきのかみすき心にこのまゝはゝのありさまをあたらしきものにおもひてついそうしありけはこの子をもてかしつきてゐてありく君めしよせてきのふまぢくらししを猶あひおもふましきなめりとゑんし給へはかほうちあかめてゐたりいつらとの給ふにしかくゝと申すにいふかひなことやあさましとて又も給へりあこはしらしなそのいよのおきなよりはさきにみし人そされとたのしけなくくゝひほそしとてふつゝかなるうしろみまうけてかくあなつり給ふなめりさりとまあこはわか子にてをあれよこのたのもし人はゆくさきみしかゝりなんとの給へはさもやありけんいみしかりけることかなとおもへるをかしとおほすこの子をまつはし給てうちにもゐてまいりなとし給ふわかみくしけとのにの給ひてさ

うそくなどもせさせまことにおやめきてあつかひ給ふ御ふみはつねにありされ  
とこの子もいとおさなし心よりほかにちりもせはかろくしき名さへとりそへ  
ん身のおほえをいつきなかるへくおもへはめてたき事もわか身からこそとお  
もひてうちとけたる御いらへもきこえすほのかなりし御けはひありさまはけに  
なへてにやはとおもひいてきこえぬにはあらねとをかしきさをみえたてまつ  
りてもなにゝかはなるへきなおもひかへすなりけり君はおほしおこたる時の  
まもなく心くるしくもこひしくもおほしいつおもへりしけしきなどのいとおし  
さもはるけんかたなくおほしわたるかろくしくはひまきれたちより給はんも  
人めしけからむ所にひんなきふるまひやあらはれんと人のためもいとをしくと  
おほしわつらふれいのうちに日かすへ給ふころさるへきかたのいみまちいて給  
ふにはかにまかて給まねしてみちのほとよりおはしましたりきのかみおとろき  
てやり水のめいほくとかしこまりよろこふこきみにはひるよりかくなおもひ  
よれるとの給ひ契れりあけくれまつはしならはし給ければこよひもまつめしい  
てたり女もさる御せうそこありけるにおほしたはかりつらむほどはあさくしも  
おもひなされねとさりとてうちとけ人けなきありさまをみえたてまつりてもあ  
ちきなくゆめのやうにてすきにしなきをまたやくはへんと思ひたれてなをさ  
てまちつけきこえさせん事のまはゆければこきみかいてゝいぬるほとにいとけ  
ちかければかたはらいしたなやましなければしのひてうちたゝかせなとせむにほ  
とはなれてをとてわた殿に中将といひしかつほねしたるかくれにうつろひぬさ  
る心して人とかしつめて御せうそこあれと小君はたつねあはすよろつの所もと  
めありきてわたとのにわけいりてからうしてたとりきたりいとあさましくつら  
しとおもひていかにかひなしとおほさむとなきぬはかりいへはかくけしからぬ  
心はえはつかふものかおさなき人のかゝる事いひつたふるはいみしくいむなる  
ものをといひおとして心地なやましなければ人ゝさけすおさへさせてなむときこ  
えさせよあやしとたれもくゝみるらむといひはなちて心のうちにはいとかくし  
なきたまりぬる身のおほえならてすきにしおやの御けはひとまれるふるさとな  
からたまさかにもまちつけたてまつらはおかしうもやあらましゐておもひし  
らぬかほにみけつものいかにほとしらぬやうにおほすらむと心なからもむねいた  
くさすかにおもひみたるともかくてもいまはいふかひなきすぐせなりければ  
むしんに心つきなくてやみなむとおもひはてたり君はいかにたはかりなさむと  
またおさなきをうしろめたくまちふし給へるにふようなるよしをきこゆればあ  
さましくめつらかなりける心のほどを身もいとはつかしくこそなりぬれといと

くおしき御けしき也とはかりものものたまはすいたくうめきてうしとおほし  
たり

は、き木の心をしらてその原のみちにあやなくまとひぬるかなきこえんか  
たこそなけれとの給へり女もさすかにまともさりければ

かすならぬふせ屋におふる名のうさにあるにもあらずきゆるは、木々とき

こえたりこきみいとくおしさにねふたくもあらてまとひありくを人あやしと  
みるらんとわひ給ふれいの人くはいきたなきにひと所す、ろにすさましくお  
ほしつ、けらるれと人に、ぬ心さまのなをきえすたちのほれりけるとねたくか  
ゝるにつけてこそ心もとまれとかつはおほしなからめさましくつらければさは  
れとおほせともさもおほしはつましくかくれたらむ所になをゐていけとの給へ  
といとむつかしけにさしこめられて人あまた侍めれはかしこけにときこゆいと  
おしとおもへりよしあこたになすてそとの給ひて御かたはらにふせたまへりわ  
かくなつかしき御ありさまをうれしくめてたしと思ひたれはつれなき人よりは  
中くあはれにおほさるとそ